

1. 各項目の特徴点、考察

お住まいの街が総合的に判断して「住みやすい」と思う人が“73.3%”

(平均以上：尾張旭市・豊明市・日進市・長久手市)

現在お住まいのところに「これからも長く」住みたいと思う人が“75.7%”

(平均以上：瀬戸市・日進市・長久手市)

現在お住まいの街が総合的に判断して「住みやすい」と思う人の割合が、「住みにくい」と思う人の割合“5.5%”を圧倒的に上回る結果となった。

また、現在お住まいのところから「いずれは別のところに住みたい」「今すぐにでも移りたい」と回答した割合が“15.6%”と比較的多く、まちづくりの細かな政策には不満を持っている住民が多いのではないかと推測できる。

市町別の回答状況を一言でいうと、日進市と長久手市は「住みやすいから、住み続けたい」、尾張旭市と豊明市は「住みやすいが、転居したい」、瀬戸市は「住みにくいが、住み続けたい」、東郷町は「住みにくいから、転居したい」という状況となった。

但し、アンケートに答えて頂いた方の居住地に大きくばらつきがあることから、あくまでも“参考数値”と捉える必要があると言える。

お住まいの街の「良いところ・好きなところ」は“緑が多く、自然環境が豊か”が“22.0%”

(瀬戸市・尾張旭市・日進市・長久手市・東郷町で第1位)

お住まいの街に「不足していること」は“公共交通基盤の整備”が“14.6%”

(瀬戸市・尾張旭市・日進市・東郷町で第1位)

“観光・商工業の振興”が“13.5%”

(豊明市・日進市・長久手市で第1位)

お住まいの街の「良いところ・好きなところ」の第2位には、“買い物などの日常生活が便利”が17.1%と、第3位の“人柄や土地柄が良い”に5.9ポイントの差を付ける結果となった。

しかし、「不足していること」の第1位が“公共交通基盤の整備”という結果にあり、色々な意味で公共交通を望む声が多いという結果になり、現実的にこのエリアは、“車中心の社会”となっていることが推測できる。

ご自身がお住まいの地域の“観光・商工業の振興”を望む声も多く、この点については、ひとつの自治体では限界があると考えられることから、県を含む広域的な対策が必要と考えられる。

また、「不足していること・“特にない”」と回答した割合も多く(17設問中で第6位)、ある意味、今お住まいの街に満足している住民も多いと推測できる。(尾張旭市・日進市・長久手市は第4位)

2. 地協の政策要望への反映課題

市町別の結果を分析すると、それぞれの地域の特性が出た内容となった。この結果をもとにしながら、「政策推進議員懇談会連絡会議」や「首長懇談会」などの題材にし、今後の地域政策の推進に役立てて行きたい。

3. 連合愛知の要望書、行政への要請取り組みとしたい項目 (地協独自では達成が困難な項目など)

現在のところ特にありません。

4. その他 (統一項目や他地協のアンケートと比較して気づいた点など)

今回のアンケート調査から、各市町の結果が吸い上げられるようになった。その結果、より細かに回答状況を分析することができ、地域の政策要望に結びつけやすくなったと考えられる。今後もこのような対応が出来るように要望する。

また、今回の調査結果から、回答頂いた居住地に大きくばらつきがあったことから、一部の結果に凸凹が生じてしまった。以降、同様なアンケート調査を行う際には、事前に各組織に居住地を指定し協力依頼するのもひとつの方策であると感じた。